

# 京都迎賓館における庭園管理業務の概要

## 【京都迎賓館】

歴史的・文化的側面も含めた幅広い対日理解を醸成するため、日本の歴史、文化の象徴として国際的にも広く知られる京都の地に、和の迎賓施設(国公賓などの賓客の接遇の場)として平成17年(2005年)に開館

施設の概要	・場 所	京都御苑内
	・敷地面積	20,140㎡ (建築面積 約8,000㎡ 庭園面積 6,790㎡)
	・構 造	鉄筋コンクリート造 (一部 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造) 日本の空間を感じられる和風の意匠に配慮し、木を活用
	・階 数	地上1階、地下1階

### 設計コンセプト ● 「現代和風」と「庭屋一如」

※「庭屋一如」とは庭園と建物が一体となって調和しているさま

### ● 11の伝統技能の活用

大工(数寄屋[すきや])、左官、建具(たてぐ)、表具(ひょうぐ)、畳、

鍔金物(かざりかなもの)、漆(うるし)、截金(きりかね)、庭園、石造工芸及び竹垣

# 【京都迎賓館の庭園】

京都御苑

京都迎賓館



# 【庭園の主な景観】



様々な景観が連なりながら 全体として調和

## 【主な庭園使用例】



佐野藤右衛門氏による接遇時の主賓への庭園説明



廊橋からの鯉の餌やり



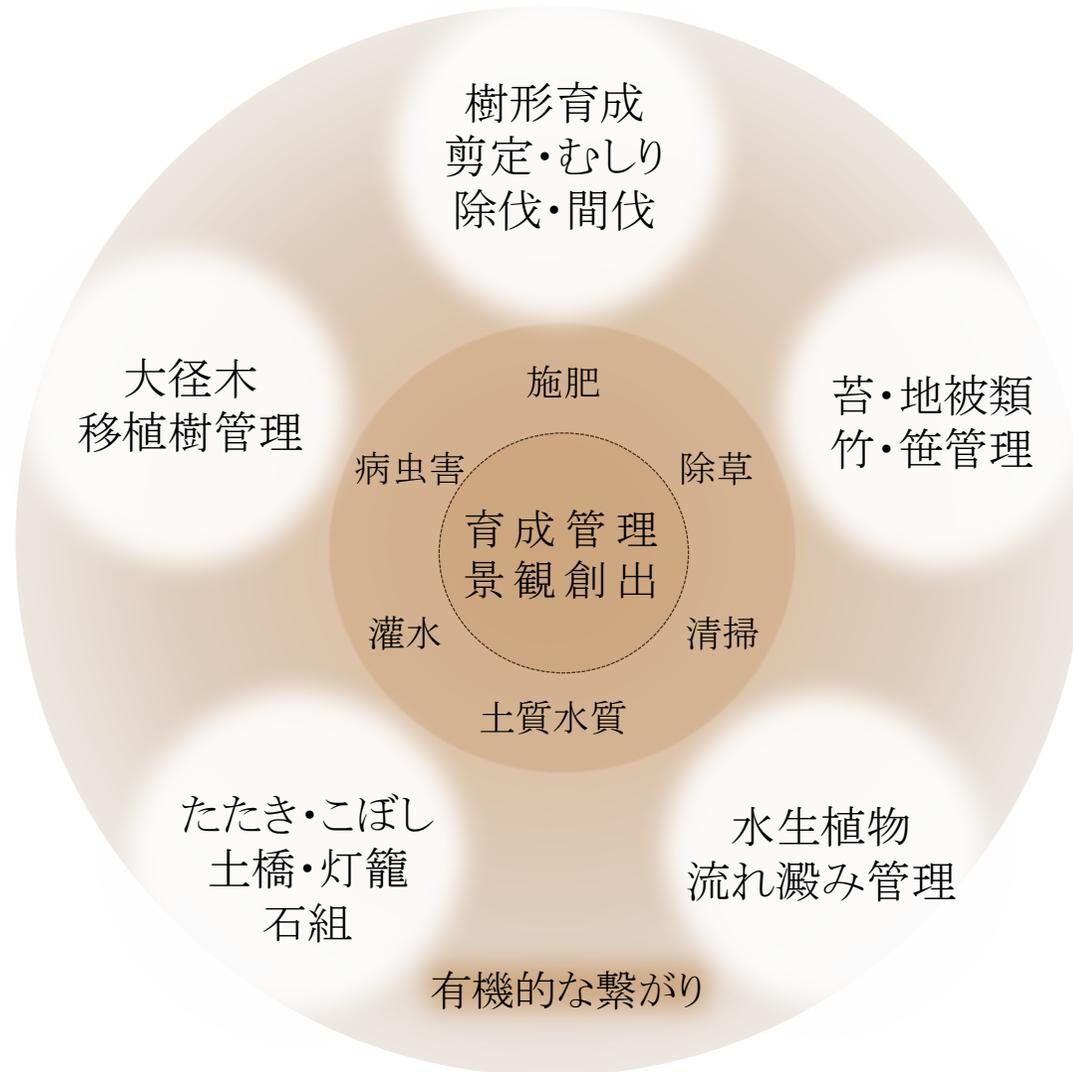
大池をめぐる 和遊び



夜景(接遇・夜間公開)

# 【庭園保全管理業務】

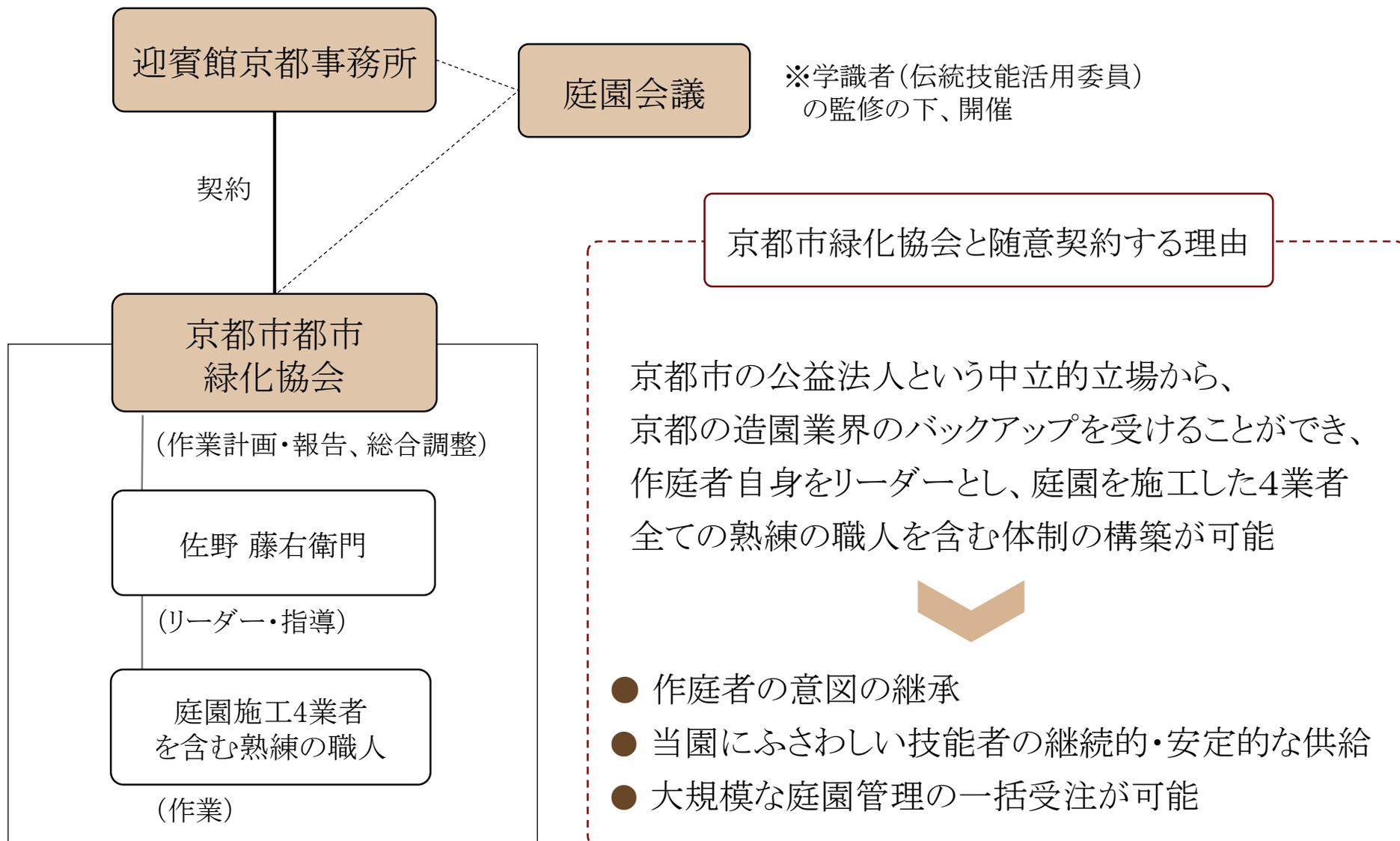
## 庭園保全管理の概念図



## 京都迎賓館の庭園保全管理のポイント

- 作庭者のコンセプトに従い 継続的な育成管理
- 庭園内の植生変化や兆候を捉え、先を見据えた制御による、新たな景観の創出
- 専門的知識や伝統的日本庭園の管理経験による一連の作業を包括した管理

## 【庭園保全管理の現状】





## 【市場化テストに適さない理由】

---

- 庭園の保全管理について、あらかじめ仕様書等に詳細を明記することが困難なため。
  - ・ 京都迎賓館の庭園については、有識者で構成された第三者委員会である「京都迎賓館(仮称)伝統技能活用検討委員会(平成14年設置)」の提言を踏まえ、伝統的な庭園に携わる豊富な経験に基づく様々な技と同時に、それらの技を理解し活かすことのできる感性と統括能力が必要とされ、佐野藤右衛門棟梁の下、伝統的な庭園施工業者により、いわば芸術作品のように作られました。
  - ・ このような庭園の維持・管理については、完成したものをそのまま保全するではなく、長い年月における自然の成長・変化とともに、作庭者の意図を継承させつつ、継続する創作活動の性格を有し、また、自然による変化を事前に予測できないことから、実際に必要となる作業内容について、あらかじめ網羅的に仕様書や契約図書に明記することは困難と考えます。

## 【今後の対応方針】

---

- 「庭園技能保存活用委員会(仮称)」の設置
  - ・ 各種有識者・学識経験者等の第三者による委員会を設置し、京都迎賓館の庭園の今後の保全のあり方や、そのための職人の確保、発注の公正さ等を多角的に検討します。